記述式試験問題 II

II-１

1-1　作業環境測定に用いられる化学物質の捕集方法を、以下の 3 つの捕集方法から 1 つ選び、原理、主な対象物質、特色等について記述せよ。

・液体捕集方法

・固体捕集方法

・直接捕集方法・

1-2　1-1 で選んだ捕集方法で分析できる物質の例を 1 つ以上あげ、その物質に適用できる分析方法 1 つについて説明せよ。ただし、物質名・分析方法とも作業環境測定基準（昭和 51 年労働省告示第 46 号）に記載されているものに限る。

II-２

次の問いに答えよ。

2-1：企業の CSR 活動とはどのようなものか説明せよ。

2-2：環境倫理について、化学物質管理の専門家としてどのような貢献ができるのか、あなたの考えを述べよ。

II-３

次の問いに答えよ。

3-1：現在、化学品の分類および表示に関する世界調和システム（略称：GHS、通称：パープルブック）に規定されている環境有害性は「水生環境有害性」と「オゾン層への有害性」の 2 つである。これ以外の化学物質に起因する環境有害性の例を 1 つあげ、その概要を説明せよ。

3-2：3-1 で選択した環境有害性の原因となった化学物質について、その物質が我々の生活にもたらした便益（ベネフィット）はどのようなものか。

3-3：3-1 で説明した環境影響を抑止するために、あなたが必要だと考える対策を述べよ。

II-４

過去に大きな環境問題を発生したことのある以下の化学物質のうちから 1 物質を選び、以下の問いに答えよ。

・六価クロム化合物

・アルキル水銀

・PCB（ポリ塩化ビフェニル類）

4-1：この物質が原因で起きた代表的な事件の概要、人体および社会への影響、実際にとられた対策、法改正や政策への影響等について記述せよ。

4-2：4-1 で選択した物質の用途および便益（ベネフィット）について述べよ。

Ⅱ―５

環境経営とは、企業が持続的に発展していくために、地球環境と調和した経営を行っていくという経営概念である。環境問題への対策はコストがかかるものの、長期的な視野を持てば企業の持続的な発展につながるとされている。

（１）あなたの会社で、自社の価値を高めるためにどのような環境経営の取り組みが行われているか、３例挙げて説明しなさい。

（２）その取り組みによって得られた環境経営の効果について説明しなさい。

（３）今後取り組みたい環境経営について簡単に記述しなさい。